

職場にカウンセラー・徐々に勤務延長…

# 精神障害者、積極的に雇用

身体障害や知的障害に限られがちな障害者の雇用で、少しずつだが精神障害者を雇う企業が出てきている。ちょっとした病気への配慮があれば、働くことができる精神障害者は多い。特例子会社をつくり、精神障害者とともに働く職場を実践している企業の現場を追った。

(松浦祐子、清川卓史、林恒樹)

## 働きやすさに配慮し支援

コンピュータ関連会社富士ソフトが障害者雇用のため設立した特例子会社「富士ソフト企画」(神奈川県鎌倉市)は、障害がある138人の従業員のうち精神障害者が67人いる。

08年2月から東京の秋葉原営業所で働く花園一晃さん(33)は、大学卒業後、営業マンをしながら会社のサポートで活躍した。仕事でのノルマに加え、終業後は練習。「こんなに忙しいのならば死んだ方がまし」との絶望感にさいなまれた。うつと診断され、退社を余儀なくされた。

復職へのきっかけは、同社が地域の医療機関や福祉団体と実施する精神障害者向け職場復帰プログラム。

約3カ月間、パソコン技術やストレス対処法などを学ぶ。修了後、同社に入り、郵便物の仕分けや会議室の飲料の管理を担当する。

高次脳機能障害、統合失調症、解離性健忘症……。同僚の障害は様々。支援で大きな役割を担うのは、カウンセラーだ。「相談すると、気持ちが悪くなる」と花園さん。残業が続く時はカウンセラーの意見を聞き、無理しないようにする。カウンセラーの佐織寿雄さんは「精神障害者はまじめでやさしい人が多く、思いをため込みがち。話を聞くのが大切な支援だ」。

◇ みずほフィナンシャルグループ

ループの特例子会社「ビジネス・チャレンジ」(東京都町田市)では障害者ら約40人が働く。昨年11月、統合失調症の3人が新たに加わった。最初から長時間勤務は難しいと考え、半年間は週12時間、その後16時間に、いずれは週20時間の勤務を目指す。仕事は、社内研修でのアンケートのパソコン入力など。神尾敬一社長は「専門用語も多いが、着実にこなしてくれている」と評価する。

同社は、地域の医療機関、障害者就業・生活支援センターなどと連携し、支援を進めている。必要な時には、会社や就労支援機関のメンバーが、医療機関にも同行し、働き方や服薬のあり方を話し合っている。

◇

関西電力の特例子会社「かんでんエルハート」(大阪市)では、約100人の障害のある社員のうち、4人が統合失調症などの精神障害者だ。中井志郎代表取締役は「障害者に仕事をしてもらわないと会社は続かない。どう戦力化していくかが企業の知恵です」と話す。

戦力化への支援の中核が11人の社員ジョブコーチ。障害者支援の専門の研修を終えた人で、園芸や印刷など主な職場の上司(主任クラス)が、資格をもつ。必要な人は毎朝、ジョブコーチと10分面談できる。

上りへの相談は勇気がいるが、毎朝時間をとれば言えることもある。体調や人間関係、心配ごとなど、心身の変化を見逃さないようにするのがねらいだ。



郵便物の仕分けや配達の仕事に取り組む花園一晃さん(右)ら。東京千代田区の富士ソフト企画

キーワード

特例子会社 障害者の雇用を進めるために、厚労相の認定を受けた子会社で、障害者の雇用数を親会社の雇用分として合算できる。今年6月現在で、242社あり、約1万1960人の障害者が働く。